

## 協同的学習及びICTを活用した学び合う授業の研究

静岡県立浜松江之島高等学校 校長 松本 茂

### 事業の概要と成果

- 1 他校の実践研究
  - (1) 学校視察
  - (2) 研究紀要等の研究
- 2 校内研究
  - (1) 校内授業検討会
    - ア 授業の様式の検討
    - イ 学習の様式の検討
    - ウ 教師のあり方の検討
  - (2) カリキュラム検討会  
学習プログラム(教材)
- 3 大学研究者との研究協議
  - (1) 授業研究
  - (2) 意見交換会

以上の項目について、研究し「平成22年度授業改善研修報告」にまとめた。

また、来年度以降も継続して研究を行うことを校内で同意を得た。

### 1 1学期

本年度は、「授業改善」を始めて、準備段階から数えて3年目にあたり、ほとんどすべての教員が「学びの共同体」先進校への学校訪問を終えた。校内的には、学期に1回の「公開研究授業」を実施し、授業改善研修が定着した。また、今年度は「ICTを活用した学び合う授業の研究」をめざし、各研究授業ではパワーポイント等を利用した授業を行った。

5月19日・・・富士市立元吉原中学校「公開研究授業」(国語) 熊木・黒澤2名訪問

5月21日・・・「第1回職員研修会 協同的授業ビデオ(国語)による研修」\*全員参加

6月14日・・・草津高校「公開研究授業」 1名訪問

6月16日・・・富士市立元吉原中学校「公開研究授業」(数学) 山口・松本2名訪問

6月21日・・・「第1回公開研究授業(国語)」

アドバイザー：名古屋女子大准教授和井田節子先生 \*全員参加

7月2日・・・富士市立元吉原中学校「公開研究授業」(理科) 大塚・石川2名訪問

8月1日～2日・・・「教育のアクションリサーチ研究会」(東京大学主催)

副校長・越智・黒澤3名参加

\*この研究会で、本校で6月21日に行われた国語の研究授業ビデオを「授業作り事例検討会」で発表。

8月14日～15日・・・南山大学人間関係研究センター主催

「協同学習ワークショップB」 越智1名参加

8 月中・・・夏期校内研修会「授業改善研修会」\*自由参加

## 2 2 学期

9 月 2 日・・・富士市立元吉原中学校「公開研究授業」（音楽）中山 1 名訪問

9 月～11 月・・・「オープンクラス」月間

\*この間、全職員を 5～6 名程度の小グループに分け、グループ毎に互いに授業を見合い、最後にグループ毎に「授業協議会」を実施した。小グループでの相互授業参観にすることにより、互いの垣根が低くなり、大変好評であった。

11 月 6 日・・・「第 2 回公開研究授業(理科)」

アドバイザー：名古屋女子准教授和井田節子先生 \*全員参加

11 月 19 日・・・愛知県立応時中学校「公開研究授業」（国・数・英）白井 1 名訪問

12 月 6 日・・・「第 2 回職員研修会 協同学習ワークショップ」

講師：創価大学教授 関田一彦先生

## 3 3 学期

1 月 10 日～11 日・・・「学びの共同体冬季研究会」白井・井上 2 名参加

1 月 28 日・・・「第 3 回公開研究授業(保健)」

アドバイザー：名古屋女子大准教授和井田節子先生 \*全員参加

2 月 16 日・・・富士市立元吉原中学校「公開研究授業」（国語）吉田・御園生 2 名訪問

公開研究授業日、学校公開等で授業を公開するときは、全員 1 時間は「授業デザイン」を作成し、グループ学習を中心とした授業を企画した。また、普段から ICT を積極的に利用した授業を進めた。

## 4 本年度のまとめ

平成 22 年度「協同的学習」の取組は、3 年目を迎えた。1 学期、外部より招いた研究者からは、厳しい指摘を受けた。授業改善が思ったほど進んでおらず、授業を受ける生徒の姿勢に意欲が感じられないクラスがあることが指摘された。「協同的学習」に取り組んで、授業に関わる生徒の様子は劇的に変化した。しかし、その後の改革の見通しがあやふやなまま、職員の間で、「授業改善」取組の初期のころの意気込みがなくなりつつあった。このままであれば、せつかくの改革がマイナスの効果を与えてしまうことになりかねなかった。「授業改善」に一枚岩で取り組めないもろさを抱えながら、若い教員を中心に丁寧な指導を積み重ね、あきらめない改革を進めてきた。教員もグループ単位で互いの授業を参観し、意見交換するなど 1 時間 1 時間の授業を大切に、授業を作り上げてきた。他教科の授業を見ることで、新しい観点から授業を考察することもできるようになり、先生方の授業の幅が広がってきた。年度末、最後の研究授業では、外部講師より本校の授業が、「協同的学習」の最先端に近づきつつあることが指摘された。大変であるけれど、走り続けること。絶えず、自分の足下を見直し、授業を変革していく意欲を持ち続けること。現状に満足することなく、次の高みを目指して、生徒とともに、理想の授業を創造していくこと、それが今後の本校の課題であると考えている。